【学校の概要】

本校の校区は、海に面しており、鰯浜・坪根地区では漁業に従事している人が多い。野瀬地区には田畑が広がり、相生（おお）地区は住宅が密集している。また、３世代同居家庭や、高齢者だけの家庭が多く見られる。人々の暮らしは、古くからの伝統を重んじ、地域としての結びつきは、比較的固い。

本校は、１８７２年（明治５年）の創立以来、１５０年の歴史がある。１９２１年（大正１０年）に校舎新築記念として植樹されたユーカリノキは、県下で２番目の大木に育ち、平成１１年２月には、相生市の天然記念物に指定された。しかし、平成２５年１月３日（木）にユーカリノキが倒れてしまい、子どもたちはもとより地域の方からも驚きと同時に倒木を惜しむ声が聞かれた。

かつては、古い漁港の相生（おお）の地に、１９０７年（明治４０年）播磨ドック株式会社が設立され、その後、「造船の町」相生として順調に発展を遂げた。しかし、１９７３年（昭和４８年）以降のオイルショックの影響を受け、造船不況の波が相生にも押し寄せ、町全体から活気が失われ始めた。さらに、１９８４年（昭和５９年）以降、石川島播磨重工業株式会社（現ＩＨＩ）の大幅合理化や社会の構造変化等により、相生市だけではなく、本校も大きく変容してきた。

一時は、２，０００名を越えていたこともある本校児童数も、現在各学年１クラス、全校児童３１名となっており。

校区に居住している人々はほとんどが本校の卒業生である。従って長い伝統のあるこの相生小学校を守り、育てようとする気風が強く、教育活動に対しても、地域・ＰＴＡから深い理解と協力を得ている。また、それだけにわが子にかける将来の期待は大きい。

児童は、家族的で比較的穏やかな気質を持っている。また、朝や来訪者に出会った時、大きな声で挨拶する姿も見かける。その一方、自分の気持ちや意見を的確に表現することに苦手意識をもつ児童もいる。行動面においてはやや根気強さに欠け、他人に甘えようとする傾向も見られる。また特別な配慮を要する児童も多い。そこで、よりよい人間関係を形成するため縦割り活動に取り組んできた。定期的に行ってきた縦割り遊び、縦割り清掃も定着し、高学年の児童に責任感やリーダーシップ、下級生のことを思いやる気持ちが育ってきている。

小中一貫教育及び幼稚園・保育所との連携、地域とのふれあいやつながりを大事にしながら、豊かな感性と強い意思を持ち、自ら学び続ける子どもを育てることが本校教育目標のめざすところである。